
自由へ

ロースト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

自由へ

【Nコード】

N3126M

【作者名】

ロースト

【あらすじ】

海と雲と空、自然はきらきら宝石みたいに光ってる。

自由へ飛び出したい

変わりある明日をいつも願ってた。
けど、今あるものは大切だから。
失うこと、どこかで恐れていた。
まだ、飛び出していない。
何も手に入れていなかったのに。

目の前に広がる青い青い海
広大なそれに僕らの知らない明日を重ねていた。
未だわからない未来、可能性広がる明日
このまま君に抱きしめられて胸の鼓動、聞いていたい。

この気持ち、空に広がれ。
空と海はともとても大きいから。
君が僕を縛るたび、
この気持ちは強く、空へと向かっていく。
強い力で君に抱きしめられるたび、
僕は自由へ飛び出したくなる思いは強くなる。

平和な、優しい日常^{ひび} 望んでいたとき、あつたけれど
どんな日常にも 終わりは来る。
どんな日常にも 慣れてしまう。

新しい未来を恐れていた。
知らないことは怖いから。
まだ、飛び出していない。

何も変わっていないのに。

目の前に広がる青い青い海

広大なそれに僕らの知らない明日を重ねていた。

通り過ぎたあの頃、二人一緒に幸せだった時間

このまま君に抱きしめられて胸の鼓動、聞いていたい。

強い力で君に抱きしめられるたび、

僕は自由へ飛び出したくなる思いは強くなる。

僕がいなくなっても、笑っていて欲しい。

君が笑っていることが僕の幸せだから。

いつか、遠い未来でも

笑っていて。

いつかまた、会うときまでに。

悲しい思い出を過去と笑えるほどに、乗り越えて行って。

君はわかっていたはずだよ、このときが来ること。

でもね、わかっていたのと。

失うこと、違うことなの。

心では悲しんでる。

この空、いつかは雲がなくなり快晴になる。

心が重くなる日も、悲しみに涙する日も

いつか、思い出になるよ。

君はわかっていたはずだよ、このときが来ること。

でも、心は違うこと望んでいた。

できればなければよかったこの時

目の前に広がる青い青い海
広大なそれに僕らの知らない明日を重ねていた。
強い力で君に抱きしめられるたび、
僕は自由へ飛び出したくなる思いは強くなる。
この気持ちは強く、空へと向かっていく。

自由へ飛び出したい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3126m/>

自由へ

2010年10月16日05時17分発行